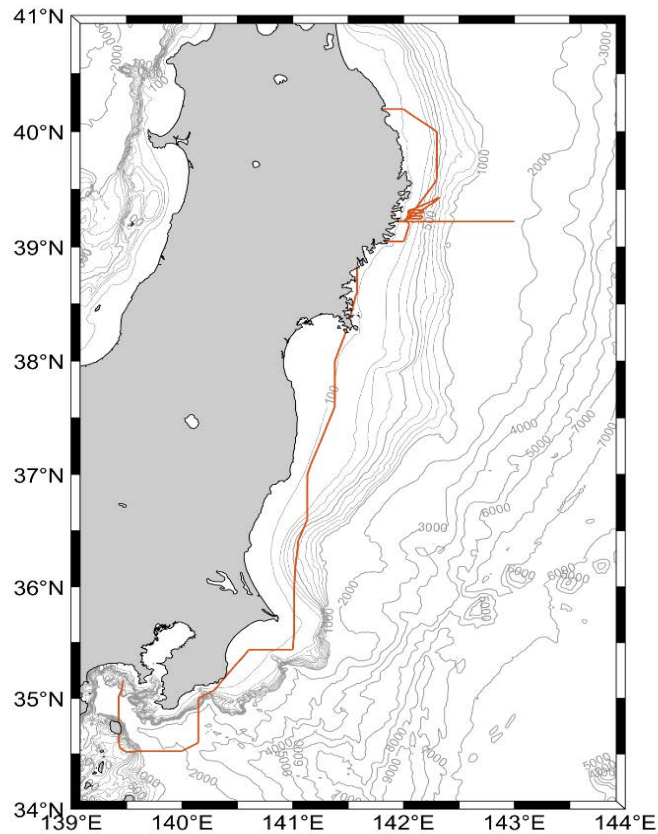


## クルーズサマリー

### 1. 航海情報

- (1) 航海番号： KS-22-11
- (2) 使用船舶： 新青丸
- (3) 航海名称  
三陸沖のサブメソスケール流動に伴う水塊混合と物質輸送・生物環境に関する研究
- (4) 主席研究員  
堤 英輔 (東京大学 大気海洋研究所)
- (5) 研究代表者  
S22-26 堤 英輔 (東京大学 大気海洋研究所)
- (6) 研究課題名  
S22-26 三陸沖のサブメソスケール流動に伴う水塊混合と物質輸送・生物環境に関する研究
- (7) 航海期間  
2022/08/04 - 2022/08/10
- (8) 出港～帰港  
八戸港白銀ふ頭 A 岸壁 - 横須賀港 JAMSTEC 専用 2 号栈橋
- (9) 調査海域  
三陸沖

## (10) 航跡図



## 2. 調査概要

新青丸 KS-22-11 研究航海は、三陸沖を研究海域とし、三陸沖で卓越するサブメソスケール（100メートルから1キロメートル）の海洋構造の生成メカニズムと、サブメソスケールの流動が物質輸送と生物環境及び生態系に与える影響の解明を目的として、2022年8月4日から10日まで実施された。本航海で実施した主な調査・作業内容は、(1) 大槌沖における2系の音響ドップラー流速計（ADCP）係留系設置による流速場の観測、(2) 大槌湾湾口沖60マイル長の東西観測線（OT観測線）とその北方に連なって位置する約15マイル長の東西観測線（U1-U4観測線）における自由落下曳航式多項目水質（Underway-bioCTD）観測、(3) 大槌沖観測線上における乱流計 VMP250 観測（7.5マイル間隔）及びCTD/LADCP/ISUS 観測、栄養塩・環境DNAサンプル採水、NORPAC ネットサンプリング（15マイル間隔）、(4) 係留点状における乱流計 VMP250 を用いた約30時間の時系列観測、(5) 2機の乱流計付フロートによる津軽暖流中の乱流観測、(6) 研究用海水分析による航跡上の多項目水質、硝酸塩濃度、有色溶存有機物（CDOM）濃度の常時計測、(7) 船底ADCPと計量魚探装置による流動場と音響散乱場の常時計測、(8) 大気フラックスの常時計測である。すべての調査・作業がほぼ予定通りに実施され、津軽暖流と三陸海岸地形間の相

相互作用で生じると考えられるフロント及び津軽暖流とその沖合の親潮間で生じるフロント周辺の物理環境と物質・生物分布に関するデータが得られた。